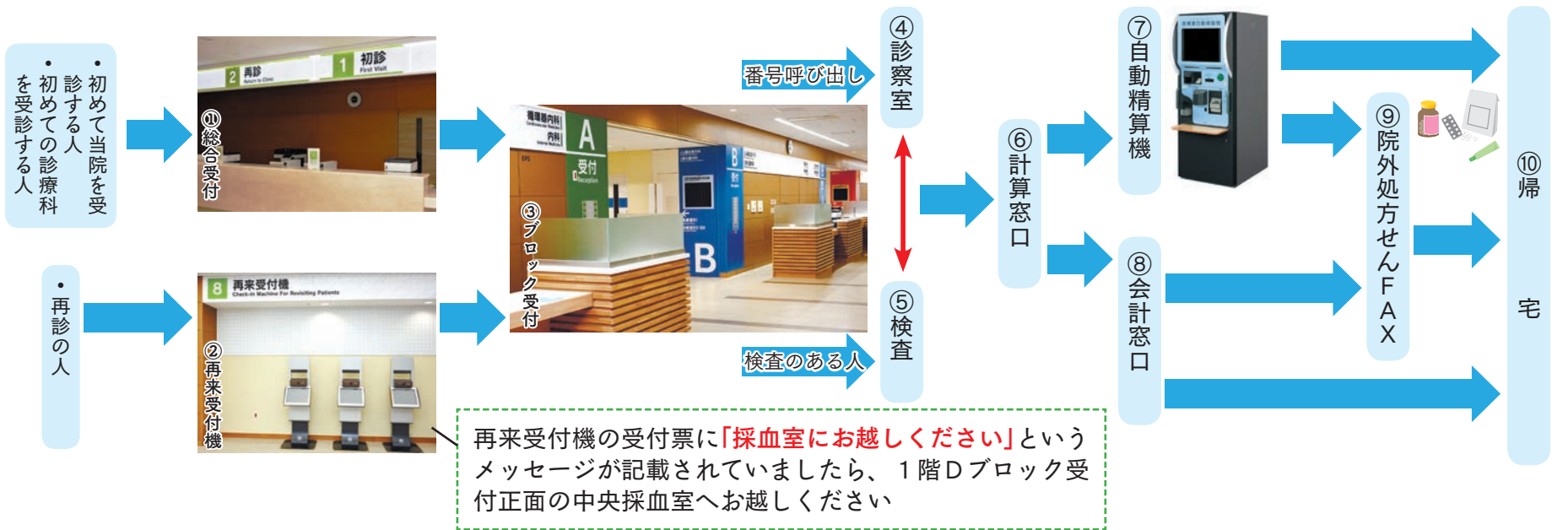


外来診療の流れ

外来診療の流れは次のとおりです。診療科をA～Iのブロックに分け(例：Aは内科と循環器内科、Bは放射線科など)、受け付けを行います。分からないことがありましたら、総合受付でお気軽にお尋ねください。



診療機能の充実

救急医療

重症救急患者に対し、24時間体制で高度な救急医療を提供し続けている救命救急センター。
今回、屋上ヘリポートの設置や救命救急センター内への手術室の設置など、さらなる救命効果の向上を図っていきます。



がん診療

専門的ながん医療の提供を行う「がん診療連携拠点病院」に指定されている市立病院。消化器・呼吸器・乳腺・泌尿器・婦人科領域のがん診療を充実させ、中央手術室やICU(集中治療室)を増床しました。



上荒田の杜公園

上荒田の地で、市民が憩い、緑の豊かさを感じることができる都市の杜として、多くの人々に永く愛され、親しまれるようにとの願いを込めて名づけられました！



「地域住民や市立病院の入院患者、来院者が気軽に散歩できる緑地」として完成した「上荒田の杜公園」。

緩やかな芝生の丘に量感あふれる高木を配置し、休憩所や遊具などのある杜の広場や災害時の一時的な避難場所にも利用できる多目的広場などがあります。
※公園内に駐車場はありません



【公園緑化課 216-1366】

成育医療センター

女性の晩婚化・高齢出産の増加などによりハイリスク妊婦の割合が高くなり、周産期医療の重要性が増していることに伴い、産科・新生児内科・小児科・小児外科を成育医療センターとして統合しました。出生前から、新生児期・小児期までを一貫して治療する体制となりました。



成育医療センターとして統合・発展



■市立病院が移転開院しました！
5月1日、鹿児島市立病院が移転開院しました。当院は、明治26年の鹿児島市立鹿児島病院の創立に始まり、昭和15年には、木造2階建ての鹿児島市立診療所として再開した後、先の大戦による戦禍など幾多の困難を乗り越えてまいりました。この間、多くの病院関係者のたゆまぬ情熱と努力の積み重ねにより、県下の中核的医療機関としての役割を担ってまいりました。当院の名を全国に轟かせたのが、周産期医療の先駆けとなる、昭和51年の五つ子誕生のニュースでした。
その後、医療を取り巻く環境が大きく変わる中、このたびは上荒田町に移転した新病院は、診療科をこれまでの21科から28科に増やし診療機能を強化したほか、高規格の新生児集中治療室を備え、また、さまざまな重症救急患者に対して迅速な治療を行えるよう、屋上ヘリポートを設置するなど救急医療のさらなる充実を図ったところでした。
今月号の特集では、この新病院の概要をご紹介しています。これからも、安心安全な質の高い医療の提供を基本理念に、全国に誇れる病院となるよう地域医療に貢献してまいります。

「茶いっぺ飲んでいっきゃんせ」と、鹿児島ではお茶を通したおもてなしの文化も育まれてきました。どうぞ、ご家族やお友達と一緒に「お茶の里」へ出かけて、香り高くうまみたっぷりの新茶をご賞味ください。
この農場跡地に今年3月にオープンした「都市農村交流センターお茶の里」では、新鮮野菜や農産物加工品の販売をはじめ、地元産のお茶の販売はもちろん、イベント時にはお茶の手もみも体験することができます。
「茶いっぺ飲んでいっきゃんせ」と、鹿児島ではお茶を通したおもてなしの文化も育まれてきました。どうぞ、ご家族やお友達と一緒に「お茶の里」へ出かけて、香り高くうまみたっぷりの新茶をご賞味ください。

■新茶の季節
風薫る5月、新茶のおいしい季節になりました。立春から数えて八十八夜の日に摘まれた新茶は古来から縁起物として珍重されてきました。
かごしま茶は日本一早い新茶としてその名が知られており、先月、全国で最も早い初取引会が本市で開かれました。
本市では松元地域がお茶の生産地として有名で、江戸時代の末期には年貢としてお茶を納めていた記録が残っているようです。このように昔から松元地域は、お茶どころとして発展し、製茶技術や品質の向上を支えてきた県産茶業指導農場も設置されておりました。
この農場跡地に今年3月にオープンした「都市農村交流センターお茶の里」では、新鮮野菜や農産物加工品の販売をはじめ、地元産のお茶の販売はもちろん、イベント時にはお茶の手もみも体験することができます。



市民とともに

鹿児島市長 森博幸

新茶の季節